

子宮がんの死亡率の高い要因についての意見

<背景>

前回の沖縄県がん診療連携協議会にて、有識者委員より国立がん研究センターが調査した『都道府県別死亡データ 部位別 75 歳未満年齢調整死亡率（1995 年～2012 年）』に関する情報提供がありました。

<検討事項>

沖縄県では大腸がんとうつがんが死亡率の高いことが報告され、今後の対策を立案する上で死亡率の高い要因について、実際に診療に携わる先生方のご意見を伺いたいと要望があったため、子宮がんWG（南部医療センター・沖縄赤十字病院・沖縄県立中部病院・豊見城中央病院・琉大病院）に意見を求めたところ、以下の回答がありました。

【実際に診療に携わっている医師からの意見】

子宮がんの死亡率の高い要因について、とのことですが、不慣れなためか参考資料で沖縄県の子宮がんの死亡率がどの程度高いのかを読み取る事が出来ませんでした。

また、統計資料は子宮頸癌と子宮体がんで分けて検討されているようですが、メールでは子宮がんとなっています。検診制度のある子宮頸癌と、検診制度の無い子宮体がんでは、検討項目など異なると考えますが、今回は子宮頸癌、体癌りょうほうをまとめて検討されているのでしょうか。

まず、子宮頸癌に関して沖縄県では進行子宮頸癌の治療の大部分を琉球大学で行っている状況にあります。多施設で治療に当たっている他都道府県と異なり、種々の事を検討しやすい環境下にあると考えます。

子宮頸癌の治療方法に関しては、子宮頸癌治療ガイドラインに準じた治療を行っていることは、他都道府県と比較しても違いはないと思われます。しかし、Ⅲ期以上の症例数が他都道府県に比べて多い傾向にあることが、相対的に死亡率が高くなることに関わっている可能性があります。

死亡率に関与しないであろう初期の症例は、県内多数の施設で治療を行っていますが、これは他都道府県とかわらないでしょう。

このような場合はほぼ治療不可能または加療しても治癒せず残念ながら死亡されますが、死亡率を上昇させるほどの人数がいるかどうかは不明です。

次に子宮体がんに関して

データが子宮がんとなっているので、解釈が難しいです。

子宮体がんは全国的に検診が行われていませんので、症状がでてから病院に来るまでの期間によって進行期がかわってくる疾患ともいえると思います。

進行した患者さんの中には、子宮体がんの治療を積極的に行っている施設へ紹介されないまま、対症療法のみで対応されている可能性があります（少数例とは思いますが）、各施設の情報を集約することが、今回の対策に役立つのかもしれない。

治療法に関しては、子宮体がん治療ガイドラインの則った治療が行われていると思われるので、治療法による死亡率の違いは、他都道府県とないと思われます。

また、時々ではありますが、経済的理由等で癌治療後の検査を受診されない患者さんもいます。果たしてこれが、他県より多いのか、また死亡率上昇に寄与するのかは不明です。